

JIA 長野県クラブ 23

社団法人 新日本建築家協会

1996. 7. 1



6月11日、長野市の山王共済会館で行われた通常総会（上）と、県学生卒業設計コンクール'96表彰式（左）、会場の一画に設けられた会員の作品展（右）



21世紀への足固め

前代表
須田 考雄

2年間の任期を無事終えることが出来ました。この間微力な私を支え協力いただきました会員賛助会員の皆様方には改めて感謝申し上げます。

景気は明るさを見せて来たとはいえ一般的には厳しい状況にあります。国内外に様々な問題を抱え、また急速に世の中が変化し、あらゆる分野に渡り再構築を求められているといっても過言ではありません。このような時に、先のJIA総会で定款が改正され（社）日本建築家協会に名称が変更になり穂積信夫新会長は、会員一人ひとりに気品のある行動を求め、それぞれの地域会等も創意工夫をし、自分でメリットを作り出す自主的活動に期待しておられます。地域会設置規則も決議され正式に支部の下に地域会が位置付けられました。地域会の枠組等運用に当ってはまだ解決しなければならない問題も多々ありますが地域クラブを支えてきた一人として大変喜ばしく思います。

健全なる21世紀への足固めの時期として、今出来ること、やらなければならないこと、個人、企業、職能を通して社会に貢献するために、今年も一層充実した年となるように、JIAの発展と建築文化の発展、地域の為に尽くしたいと思います。



さらなる飛躍を願って

代表
出澤 潔

6月11日の通常総会において、JIA長野県クラブ代表のご指名をいただき、私のような者がこの重責を担い得るのか、その責任の重さを改めて感じております。

先輩の皆様をはじめ、会員の皆様、そして行政当局、関係諸団体の皆様の大きなお力をいただき、与えられた責任を全うしなければならないと考えております。どうかよろしくご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

新日本建築家協会は、このたび日本建築家協会と名称を改め、昨年来議論を重ねてきました地域会の設置を決定いたしました。JIA長野県クラブも新たな気持ちのなかで、より一層活力に溢れた活動が望まれるところです。

私は、私達の会がもっともっと自分達に身近なものになって、積極的に関わり合うことの出来るためにはどうしたら良いのか、皆様と共に考えていきたいと思っています。そしてまた、クラブ会報22号にも書かせていただきましたが、自分は何故JIAに所属し、自分にとってJIAはどんな存在なのか、何のために自分は建築を創ろうとしているのかを改めて考えてみたいと思っています。皆様それぞれのお考えがあることと思います。地域社会のより良い環境づくりへの情熱は皆様同じことと存じます。大いに語り合い刺激し合いたいと思います。

中信



過去の遺産を勉強

伊藤 公績
（株）伊藤建築設計事務所

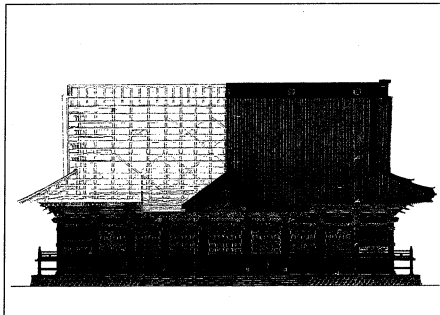
日本建築史の勉強をしていると我々がとても追いつけないことに会うことがあります。古図に見る日本建築という本の中の指図を見れば、今日の我々の仕事では及びもつかない精緻さがあります。

増上寺本堂建地割図（立断面図）を見れば瓦一枚に始まり木鼻の意匠、棧唐戸の絵様等すべてがデザインされ彩色まで施されているのです。現代に伝えられている生産技術としての「木割」が当時の大工棟梁の秘伝として代々受け継がれ、システムチックに建物が計画されていたということと同時に、細部の彫刻や色彩計画までを設計行為として行っていた事実を知れば、現在の我々の設計手法が決して

ほめられるものとは言い難いと思います。過去の遺産を受け継ぐ修練をすることもほとんどなく、ただ感性という言葉で盾にした切れナイフで空間に建物を勝手気ままに切り出しているのではないのでしょうか。

ただ、この時代の代表的な建物の多くは一部の人々のために造られたものであり（宗教建築等は除外される部分であるかもしれないが）、その他大勢のための建物ではなかったと思います。それに対して我々が現在おこなっている設計行為は、公共建築について考えて見れば、決して個人のためではなく、その地域の人、あるいはその施設に関係する一般の人々のために行っていると思います。また一般の住宅にしてもローコストの条件でいかに家族の生活を営むのかをいろいろな側面から検討して、平面計画等を提案し、社会との関わりをどのように捉えていくかを施主と共に考えていく行為を日々繰り返しているのだらうと思います。

建築は多くの場合、経済活動の中でしか成り立たない行為だと思いますので、その中で真に人々に優しい、人々の心が和むような建築を心がけていくことが、建築を生業とする私どもの役割ではないのでしょうか。なにが本物の建築なのかはすべてを総合した上に考えるべきものだと思います。そのための一つとして過去の遺産を勉強して己がナイフを磨くことも大切ではないのでしょうか。



増上寺本堂建地割図

南信



人・まち・地球

宮下 治
（有）A1設計

私の好きなことばの一つに「一人はみんなのために、皆はひとりのために」という大変分かり易く、難しい言葉があります。多くの皆様をご存じのことと思います。

私がこの言葉に出会ったのは、三十代半ばの頃で駒ヶ根の社会福祉協議会で進めていた福祉のまちづくり運動に参画していたころの事でした。

福祉の基本理念を表した言葉だと思いますが、まち創りの基本的な考え方とも相通じるものがあると感じ、設計に携わる者として様々な意見や考えの判断基準として私の物差しの一部となっているので紹介した訳です。

景観といった切り口から見ても、個々の建築物の仕事をさせていただく時には常に全体との調和、具体的にいえば、地域やまちの景観や雰囲気合うか、又周りの自然や環境に調和しているか等配慮するのは法令や条例以前の事で、当然の努力義務かも知れません。一方地域社会やまちとしては、道路や公園、河川や橋などといったインフラの整備に際し、自然環境や景観面、また歴史や地域特性と言った見地に立ってまち創りが進められるようになってきたことは皆さんご承知の通りです。しかし最近の傾向として大変不安に感じている事があります。

それは近年の日本経済と大きな関わりを持っているように思いますが、一つには量産住宅、ローコスト規格建物の氾濫で、地域らしさや、まち並が壊されつつあること。二つには熟練した技術者が激減していることです。

かつての住宅施策が裏目となり悪環境に陥っている様に感ずるのは私ばかりではないと思います。

自然との共生、自然環境に優しいまち創りといった観点から身近な森林の育成や水資源の確保の為の運動を、また、人づくりといった面から建築技術者の育成等の問題に組織をあげて取り組み、結果として信州の建築文化の構築に向けて皆で手を携えて推進できたら素晴らしいことと思います。

最後に私達は建築士の資格を持っている訳ですが、士の条件について孔子の弟子の曾子は「大丈夫たる士は度量広く意志が強固でなくてはならぬ。例えば重荷を背負って遠い道を行くが如きである。士は最高道徳たる仁の実践者でなければならず、死に至るまで一息でも残っているかぎり己の任務を遂行しなければならぬ。その歩む道たるやまことに遠きものである」と説いています。

21世紀を担う青少年が大きな志と希望を持って歩める郷土にしたいものです。

'96長野県学生卒業設計コンクール

入賞作品

応募数/
大学の部7点、高校の部12点

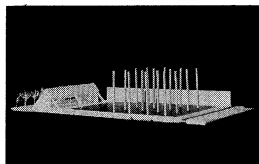
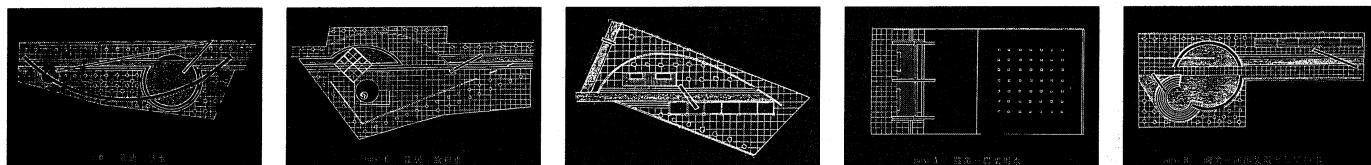
コンクール審査委員会

委員長 藤森照信 (東京大学助教授) 委員 宮本忠長 (建築家)
委員 柳澤孝彦 (建築家) " 須田考雄 (JIA長野県クラブ代表)
" 柳沢京子 (グラフィックデザイナー)

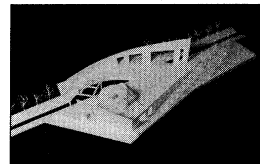
金賞

「WATER SPACE」

桑木 雅行
(信州大学工学部)



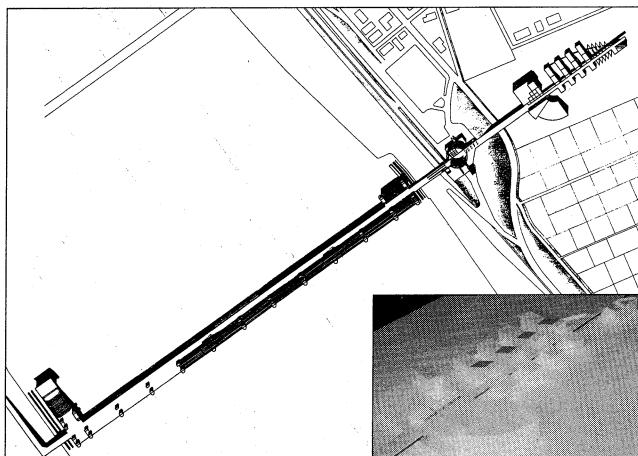
大学の部



銀賞

「奇跡」

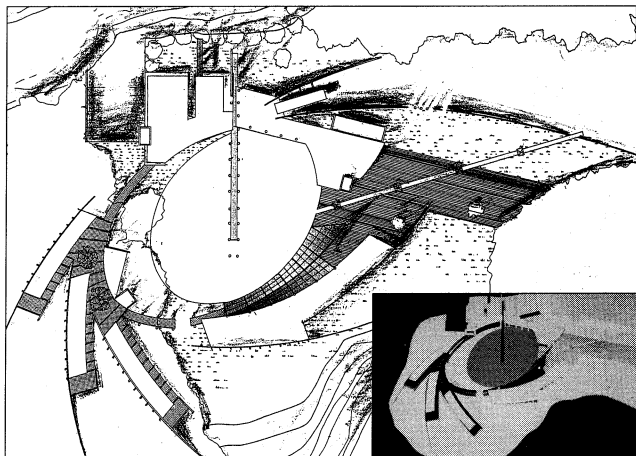
白須 万寛
(信州大学工学部)



銅賞

「RELEASE INPATIENTS」

佐藤 克貴
(信州大学工学部)



審査をふりかえって

審査委員長 藤森 照信

大学の部は、桑木雅行君の“Water Space”が金賞となった。長野市内を人知れず走る用水路に着目し、その復活と利用を図った計画であるが、まず、着眼点の良さが評価された。都市の河川や湖沼への関心は、ここ数年の卒業設計にしばしば見られるけれど、現実の小水路に着目する例は珍しく、同君の日頃の都市観察の鋭さのたまものといえよう。再利用のやり方は定石どおりだけれど、デザインにわざとらしいところがなく、全体のバランスの良さは特筆に値しよう。

銀賞の白須万寛君の“奇跡”は、例の長良川の水門の利用方法が奇跡的逆転を起こし、エコロジーの博物館施設として転用されるというもので、大学生ならではの社会的批評精神が評価された。ただ惜しむらくは社会的テーマ性の割にデザインに新しさがなかったことで、視覚的にももっとエコロジカルなデザインの追求があっべきだろう。

銅賞の佐藤克貴君の“Release Inpatients”は、新しい病院建築のあり方を提案したもので、これまでの病院の“治療”という考えを“癒し”へと転換することを求めた内容となっている。この案もまた時代のテーマに敏感に反応している点が評価されるが、しかし、この案も

またデザイン面では旧来を脱しておらず、癒しの空間とはどうあるべきかについてもっと実感を持って追求してほしい。

大学の部の特徴としては、水、癒し、隠れ家、自然といった現代の直面するテーマが取り上げられている。よいことにちがいないが、その反面、テーマに寄りかかりすぎている面も見受けられる。

高校の部は、これまで、テーマが住宅とコミュニティの文化施設に限られていたが、今年はずっとオフィスビルとコミュニティに属さない平和祈念館が登場した。テーマの多様化はまことに望ましいことである。

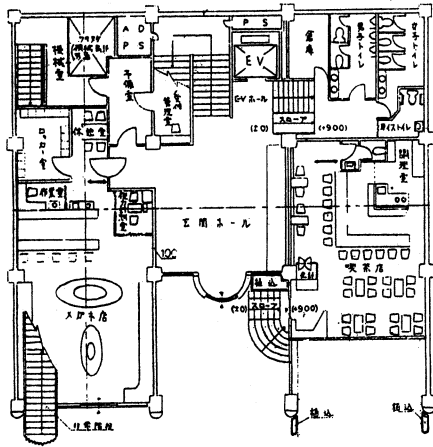
金賞に輝いたのは野口良治君の“事務所ビル”で、アクソメ図が高校生ばなれしているし、都市の中小ビルの雑居性をどう扱うかに苦心の跡が見られた。銀賞は直江泰裕君の“集合住宅”と池内雅美さんの“平和祈念館”。前者は集合住宅の各階の各住戸の間取りをすべて変えるという大変努力のかかることを敢行しており、その努力が認められた。後者は、テーマに独自の視点が感じられ、平面計画にも工夫がある。銅賞は、田中慎治君の“飯田市コミュニティセンター”と齋藤昌一君の“二階建専用住宅”、村井佳子さんの“地域図書館”。平面計画がよく整理されている点が評価された。とかく高校の部は平面の混乱が目立つからである。

総評するなら、大学の部は一応のレベルは保っているものやや足踏み状態にあり、一方、高校の部は、着実にレベルが上がっていったものしい。

金賞

「事務所ビル」

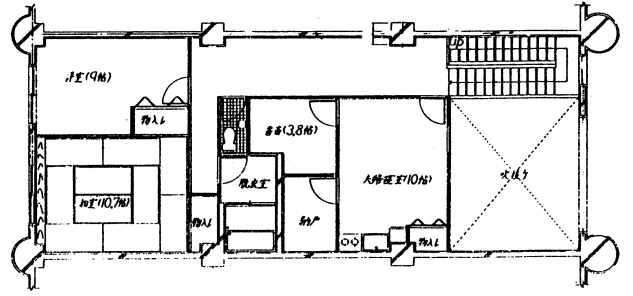
野口 良治
(池田工業高等学校建築科)



銀賞

「集合住宅」

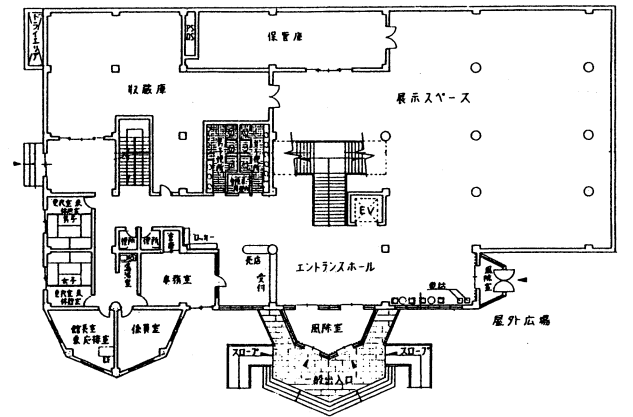
直江 泰裕
(池田工業高等学校建築科)



銀賞

「平和祈念館」

池内 雅美
(長野工業高等学校建築科)

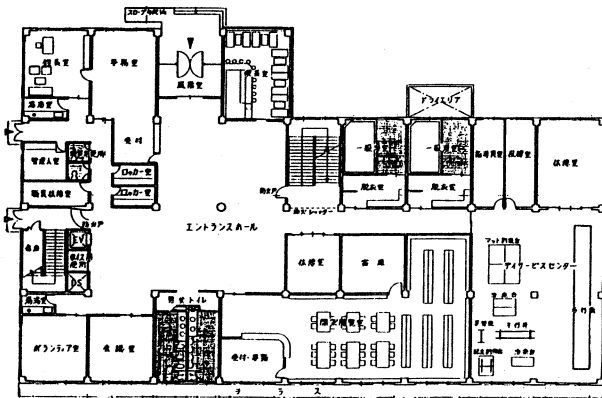


高校の部

銅賞

「飯田市コミュニティセンター」

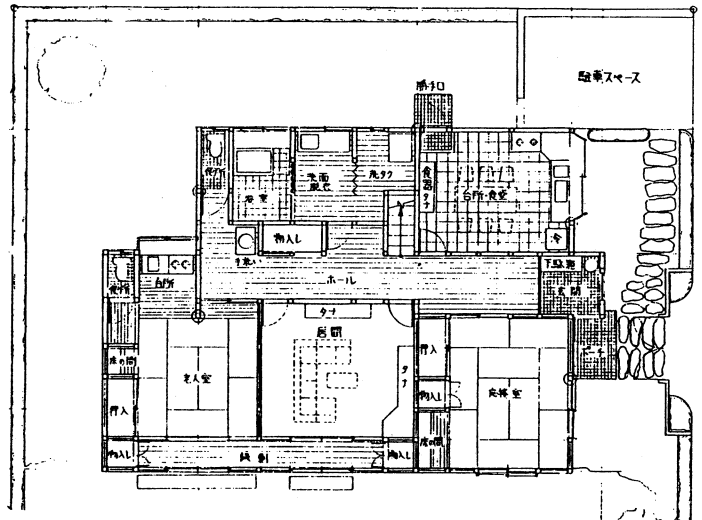
田中 慎治
(飯田長姫高等学校建築科)



銅賞

「二階建専用住宅」

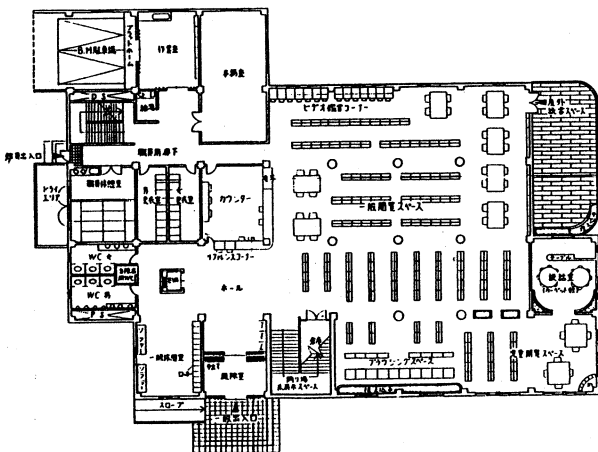
齋藤 昌一
(上田千曲高等学校建築科)



銅賞

「地域図書館」

村井 桂子
(長野工業高等学校建築科)



'96 J I A 長野県クラブ通常総会記念講演会を聞いて

「同じ釜の飯」から学校統合を提案

沖村陽一 (㈱環境計画)

今回の講演会は、穂積信夫先生の「建築設計の面白さ、難しさ」。穂積先生の誕生した1927年(昭和2年)から現在まで、自らの体験談からそれぞれの時代の背景、影響のあった建築家、自分の建築に対する考え方の変遷など、2台のスライドを使い、わかりやすく、内容の濃い講演会であった。概要は以下のとおり。

ペンシルバニア大女子学生寮のアトリウムの発想では、一人の部屋、階、棟、寮のコミュニティの4つの空間のヒエラルキーを意図したこと。

サーリネンが彫刻を作り、それをケビン・ローチ、シーザー・ペリが建築に転換したというエピソード。

田野畑小学校では、漁村と農村の一体化を目指し、同じ釜の飯を食う意図から学校統合化を提案したこと。

早稲田大付属高校では、安藤勝男先生に3割無駄といわれた等々、講演の随所にみられた安藤先生の「素朴機能主義」に対する穂積先生の考え方。

「大自然の中であって、自然もきれいにみえてくる家。そんな建築を創りたい。」

「美術ずれた建築は害であり、ある種の科学的理論が建築には必要である」と言われる先生の自然感や、ご自分の建築家としての考え方。

紙面の都合で全部を言い尽くせないが、心の中に残った穂積先生の考えやエピソードを挙げてみた。

心に残った「機能か象徴か」

須藤優子 (信州大学工学部3年)

講演会は、和やかな雰囲気の中で行われました。たぶん先生の優しいお人柄のせいでしょう。私達学生にも大変わかりやすくお話し下さいました。お話は先生の経歴をもとに、先生が今まで感じてこられたこと、それについて考えられてきたことで、それは私達学生も最近少しずつ感じてきていることと共通するところがあり、より身近に感じられる内容でした。

最近、私もわかってきたことですが、設計を進めていく中で壁にぶつかったとき、とても辛くやめてしまいたくな

るのですが、そこで踏みとどまりがむがりぬいて壁を乗り越えたときの喜びは何とも言えず、建築がおもしろく感じられます。壁があればあるほど、高ければ高いほど、それを乗り越えたときに感じるものは大きく、自分がつくろうとしているものに愛情を感じてくるのだと思います。先生のお話の中でもそのような内容があり、改めてそのことが感じられました。

しかし私はスライドで映された建築物を実際に見たことがなく、先生がつくられた建築物も見たことがありません。ですから、先生が様々な人々や建物と関わって感じたこと、考えられたことを表面的にしか理解できなく、深く知ることができませんでした。それがとても残念に思います。最後に話された「機能か象徴か」というテーマがとても心に残った講演会でした。



「建築設計の面白さ、難しさ」
早稲田大学名誉教授 穂積 信夫

J I A 長野県クラブ役員 (カッコ内は支部役職)

代表	出澤	潔	出澤	建築設計事務所	(常任幹事)
副代表	松	重	(有)みずゞ設計		
副代表	上	保	(株)カミムラ建築研究室	(幹事・総務委員)	
副代表	関	邦	(有)関建築+まち研究室	(業務委員)	
副代表	高	重	(株)ローカル建築設計室		
理事	須	考	(株)アーキ・クリエイション		
理事	佐	友	計画工房都市建築設計事務所		
理事	新	典	(有)A & A 構造研究所		
理事	倉	英	(株)倉橋英太郎建築設計事務所	(保存問題委員会ワーキングメンバー)	
理事	久	三	(有)久保田建築設計事務所		
理事	川	上	(有)かわかみ建築設計室		
理事	御	子	(株)建築研究所フォーラム		
理事	依	田	(株)依田建築設計事務所		
理事	片	倉	片倉隆幸建築研究室		
理事	久	保	(株)宮本忠長建築設計事務所		
理事	土	屋	(株)シティープラン		
理事	坂	田	坂田工業(株)		
理事	小	野	中信電機(株)長野支店		
理事	櫻	井	(株)櫻井武久建築設計研究所	(選挙管理委員)	
監事	渡	辺	(株)角藤長野支店		

正 会 員

足利 憲孝 (株)宮下設計アトリエ	久保田正博 (有)みすゞ設計	西田 浩一 (株)嶺建築設計事務所
甘利 享一 (株)甘利享一建築設計舎	久保田三代 (有)久保田建築設計事務所	根石 忠生 (株)鈴木建築設計事務所
荒井 茂明 (株)宮本忠長建築設計事務所	熊谷 實 (株)桂建築設計事務所	羽生田八郎 (株)羽生田建築設計事務所
新井 典夫 (有)A & A 構造研究所	倉橋英太郎 (株)倉橋英太郎建築設計事務所	場々 洋介 (株)フジ設計
荒井 洋 (株)HAL一級建築設計室	小菅 健 (株)小菅建築設計事務所	原 逸穂 (株)カミムラ建築研究室
新井 優 (有)みすゞ設計	小林 隆茂 (株)小林隆茂建築設計事務所	萬羽 増雄 (株)ばんば建築研究室
飯島 和夫 (株)飯島建築設計事務所	小松 蒼一 (株)小松一級建築士事務所	細川 義雄 (株)細川義雄建築設計事務所
池田 豊雄 (株)桂建築設計事務所	斉藤 治 (有)斉藤建築デザイン室	益田 誠一 (株)大建設計長野事務所
池田 瑞夫 (株)池田建築工房	斉藤 裕 (株)建築研究室夢香房	増田 祐一 (株)アルス設計
出澤 潔 (株)出澤潔建築設計事務所	櫻井 武久 (株)櫻井武久建築設計研究所	町田 憲一 (株)宮本忠長建築設計事務所
市瀬 清志 (株)桂建築設計事務所	佐藤 友治 (株)計画工房都市建築設計事務所	松下 重雄 (有)みすゞ設計
伊藤 公績 (株)伊藤建築設計事務所	篠田 論 (株)宮本忠長建築設計事務所	丸山 幸弘 (株)館設計工房
伊藤 清文 (株)鈴木建築設計事務所	篠田 尚幸 (株)N A O 設計室	三浦 憲 (株)三浦設計事務所
伊藤 宗春 (株)伊藤建築設計事務所	篠田 博文 (株)マルタ設計長野事務所	御子柴 進 (株)建築研究所フォーラム
大木 島清穂 (有)西沢構造設計事務所	城取 義直 (株)城取建築設計事務所	溝端 利一 (株)宮本忠長建築設計事務所
小笠原光彦 (株)県設計事務所	須田 考雄 (株)アーキ・クリエーション	南島 宗市 (株)桂建築設計事務所
沖村 陽一 (株)環境計画	関 邦則 (有)関建築十まち研究室	三村 哲夫 (株)英建築設計事務所
荻原 白 (株)宮本忠長建築設計事務所	高橋 重徳 (株)ローカル建築設計室	宮澤 秀治 (株)宮澤秀治建築空間研究所
片桐 一幸 (株)かたぎり建築設計事務所	武井 辰夫 (有)武井建築設計事務所	宮下 治 (有)A I 設計
片倉 隆幸 (株)片倉隆幸建築研究室	竹花 彰男 (株)彰建築設計事務所	宮本 忠長 (株)宮本忠長建築設計事務所
上村 保弘 (株)カミムラ建築研究室	児野 登 (株)アーキディック環境計画研究所	宮本 仁夫 (株)宮本忠長建築設計事務所
川上 恵一 (有)かわかみ建築設計室	土屋 長命 (株)シティープラン	山岸 信蔵 (株)橋建築長野事務所
北澤 隆重 (株)伊藤建築設計事務所	中澤 栄二 (株)エービーシー一級建築士事務所	山住 博信 (株)A・E・D 建築研究所
木下 光 (株)環境プランニング	西沢 潔 (有)西沢構造設計事務所	湯本 弘行 (株)誠設計事務所
君島 弘章 (株)君島弘章建築設計事務所	西沢 広智 (株)宮本忠長建築設計事務所	依田 政司 (株)依田建築設計事務所
久保 隆夫 (株)宮本忠長建築設計事務所	西澤 嘉雄 (株)宮本忠長建築設計事務所	渡辺 袈裟己 (有)渡辺建築設計事務所

賛助会員(専業設計事務所)

(株)アーキ・クリエーション	(株)桂建築設計事務所	(有)斉藤建築デザイン室	(株)マルタ設計長野事務所
(株)県設計事務所	片倉隆幸建築研究室	(株)櫻井武久建築設計研究所	(株)三浦設計事務所
甘利享一建築設計舎	(株)カミムラ建築研究室	(株)シティープラン	(有)みすゞ設計
(株)アルス設計	(有)かわかみ建築設計室	(株)城取建築設計事務所	(株)宮本忠長建築設計事務所
(株)飯島建築設計事務所	(有)久保田建築設計事務所	(株)鈴木建築設計事務所	(株)依田建築設計事務所
池田建築工房	(株)倉橋英太郎建築設計事務所	(有)関建築十まち研究室	(株)ローカル建築設計室
出澤潔建築設計事務所	計画工房都市建築設計事務所	(有)武井建築設計事務所	(有)渡辺建築設計事務所
(株)伊藤建築設計事務所	(株)建築研究所フォーラム	(有)西沢構造設計事務所	
(有)A & A 構造研究所	小松一級建築士事務所	羽生田建築設計事務所	

賛助会員(メーカー・代理店)

(株)五十鈴	サンエイ (株)	立山アルミニウム工業 (株)長野営業所	(株)ニュースト
(株)イトーキ長野支店	三協アルミニウム工業 (株)長野支店	立山アルミニウム工業 (株)松本営業所	野安製瓦 (株)
岩崎電気 (株)長野営業所	(株)サンゲツ長野営業所	中信電機 (株)長野支店	東日本旭化成建材 (株)
岩月瓦工業 (株)	(株)シノダ	中部電力 (株)長野支店	藤村ヒューム管 (株)長野営業所
(株)岩野商会	(株)シマコ	土屋工業 (株)	(株)双葉飯田営業所
(株)越前屋	昭和鋼機 (株)	東海コンクリート工業 (株)長野営業所	(株)前田鉄工所
(株)岡村製作所長野支店	信越化学工業 (株)長野営業所	東京チトセ (株)長野営業所	松下電工 (株)長野住設建材営業所
(株)角藤長野支店	信越アステック (株)長野営業所	東京理工器 (株)	松田産業 (株)
鐘淵化学工業 (株)東京支社	(有)水研設備設計事務所	トヨー工業 (株)長野支店	丸五 (株)長野出張所
(株)川島織物販売長野営業所	炭平コーポレーション (株)	東洋プレコン工業 (株)	(株)丸富
川鉄建材工業 (株)長野営業所	(株)創和システム	トステム (株)ビル甲信越支店	(株)丸六鋼材店
関東地質 (株)長野営業所	第一公害プラント (株)	トライアーン (株)	(株)ミヤコー
(株)クマヒラ長野営業所	(有)泰成電機工業	(株)ナガイ	(株)本久
(株)栗本鉄工所	ダイダグン (株)長野営業所	長野外装工業 (株)	矢崎総業 (株)長野支店
(株)クリーン長野	(株)ダイレックス新潟営業所	(株)ナカジマ	ヤマキ工業 (株)
(株)甲州屋	(株)タキザワ・ホーミング	(株)長野コクヨ	リリカラ (株)松本営業所
坂田工業 (株)	(株)タジマ長野営業所	長野三菱電機機器販売 (株)	(株)YKKAP長野松本営業所
桜井塗装工業 (株)	田島ルーフィング (株)大宮営業所	(株)日創建材	綿半鋼機 (株)長野支店
サンウェーブ工業 (株)信越支店	立川ブラインド工業 (株)松本営業所	日本屋陶器瓦協業組合	

クラブインサイド

5月14日理事会から

久保田 三代

5月14日松本駅前マウントホテルの一室にて開催。主な議題/①長野県卒業設計コンクール'96'＝当日午後1時より審査委員長藤森照信をはじめ、柳沢京子、柳澤孝彦、宮本忠長、須田考雄各委員による審査会の件。(理事会終了後審査会を見学させて頂き、各先生の作品に対する意見と作品を見比べて大変勉強になりました)②平成8年度通常総会＝今年度は役員改選期であり、須田代表が辞任表明。その他総会に対する細部打合せ。③建築家の日について。他にもクラブ委員会活動報告と盛り沢山。『建築家カタログ』については理事会終了後、ロビーにてフリートーク。

卒業設計コンクール審査会 倉橋 英太郎

県学生卒業設計コンクール'96の審査会は5月14日松本市のマウントホテルで開き、大学、高校各部門の入選作品を決めた。今回の応募数は大学が信州大学から7件、高校が建築科を持つ4校から12件だった。審査員は例年同様、藤森照信東大助教授を審査委員長に、建築家の柳澤孝彦、グラフィックデザイナーの柳沢京子、建築家の宮本忠長、クラブ代表の須田考雄の各氏が務めた。

6月11日理事会から 川上 恵一

第2回理事会は6月11日長野市の山王共済会館で開いた。当日は年1回の総会、学生卒業設計コンクール表彰式、穂積新会長を迎えての記念講演会、懇親パーティなど盛沢山のイベントがあり、その下打ち合わせを含め議事も盛沢山。役員改選もあり、人事が大変であった。今回もそうだったが、会はいつも活発な意見が出され、時間切れの尻切れトンボになってしまう。何とかこの会を充実したい、との意欲の表れかと思う。次回は7月19日松本で開催することを確認。

8年度通常総会、新代表に出澤氏 関 邦則

本年度の総会は6月11日、長野市の山王共済会館で開催された。冒頭、挨拶に立った須田代表からは本部総会の報告(別記)に合わせて退任の意思が表明された。僅か一期だけの在籍であったが前伊藤代表の後を受けてさわやかな運営をされた功績は絶大であったと思う。総会議事は滞りなく進められ、最後の役員改選において新代表に出澤氏、新副代表に高橋氏、新理事に久保氏(溝端氏の後任)、片倉氏が追加選任された。今後もフレッシュな活動に期待したい。

引き続き長野県学生卒業設計コンクール'96'の表彰式が催された。学生たちの緊張した顔付きが印象的で、今後の活躍を応援したい気持ちになった。

同時に開催された第2回会員作品展には全部で11名の会員の作品パネルや模型が展示され、訪れた来賓や学生の目を引いていた。

クラブアウトサイド

JIA支部総会

出澤 潔

5月23日、JIA関東甲信越支部総会が国際文化会館で開催されました。他団体の総会とは違って、特別な雑壇もなく、特別な飾り物もなく、用意された椅子が足りない程会場一杯の会員だけの質素な、しかし私にはとてもスマートに感じた総会でした。斎藤支部長の再任の他は新しい役員による支部の活動が新たに始まります。会員増強について、会の財政についてなど、積極的な質疑があり、とても意義ある総会でした。

総会后、穂積会長のご挨拶がありました。会長の静かなそしてユーモアにあふれたお話がとても印象的でした。

JIA本部総会

須田 考雄

5月29日本部通常総会が大手町安田火災、富士銀行大手町共同ビル21階会議室で行われた。最大の議決事項の名称変更は、新がとれ「(株)日本建築家協会」となり、穂積信夫新会長始め役員の新任、再任がされた。10番目の支部として沖縄支部設立が認められ、来年の総会で議決されると正式に沖縄支部が発足する。地域会については正式な位置付けがなかったが、今回は設置について規則を設けることが議決された。地域会の構成、範囲等異論も多く運用にあたっては検討課題も多い。その他、NCARBの国際的建築家の登録についての動きが活発化しており、日本も早急に対応を迫られている。建築家資格制度の意見のとりまとめは6月が日途。

アーキテツガーデン

関 邦則

本年度のアーキテツガーデンは6月15日(土)から23日(日)まで東京新宿の工学院大学で開催された。昨年よりは縮小した規模内容となったようであるが、長野県クラブからは右のような活動概要紹介パネルを展示した。



編集人 関 邦則
発行人 出澤 潔
発行所 JIA長野県クラブ
長野市大字南長野野字
宮東426-1
長野県建築士会館内
TEL 026 (232) 3897
FAX 026 (232) 5303
作成 新建新聞社